

くろかわ商工会 経済・景気動向調査書

[2016年10月調査]

2016年10月31日
くろかわ商工会

目次

第1部 全国・東北・宮城県の経済状況	4
1. 経済動向	4
1. 1 生産	4
1. 2 建設	4
1. 2. 1 新設住宅着工	4
1. 2. 2 公共投資	5
1. 3 個人消費	5
1. 3. 1 百貨店・スーパー販売額	5
1. 3. 2 新車新規登録・届出台数	6
1. 4 雇用	6
1. 4. 1 新規求人倍率・有効求人倍率	6
1. 5 企業倒産	7
2. 企業景気動向	8
2. 1 業況判断DI	8
2. 2 売上DI	9
2. 3 採算DI	9
2. 4 資金繰りDI	10
2. 5 設備投資実施率	10
第2部 くろかわ商工会地区の動向	11
1. 人口動向	11
2. 事業所数・従業員数動向	11
3. 商圏	12
4. 観光	13

- #### ・本文書における指標の計算方法について

1) 以下の指標は平成22年の数値を100とし、季節変動調整済みである。

【計算式】

出典統計表の計算方法による

【対象】

1.1 生産 鉱工業生産指數

2) 以下の指標は、本文書において経年比較をしやすくするために正規化を図っている。

正規化の方法は、平成25年の数値を100として指数を計算するものである。

また季節変動は未調整である。

【計算式】

平成25年全体の実数 ÷ 12 . . . A

計算対象年月の実数 . . . B

$$\text{指数} = B \div A$$

【対象】

1.2.1 新設住宅着工指數

1.2.2 公共投資指數

1.3.1 百貨店・スーパー販売額指數

1.3.2 新車新規登録・届出台数指數

1.5 企業倒產指數

- #### ・本文書におけるDIの計算方法について

DIは各出典統計表の計算方法による。

- #### ・各種統計値の更新間隔について

本文書で使用する統計値は、四半期単位での比較が可能になるよう、更新間隔が月単位及び四半期単位のものを主に使用する。ただし第2部の当会地区に関する統計情報は、利用可能な数値の更新間隔が年単位及び数年単位のものしかないため、本文書での比較も更新間隔に応じて行うこととする。

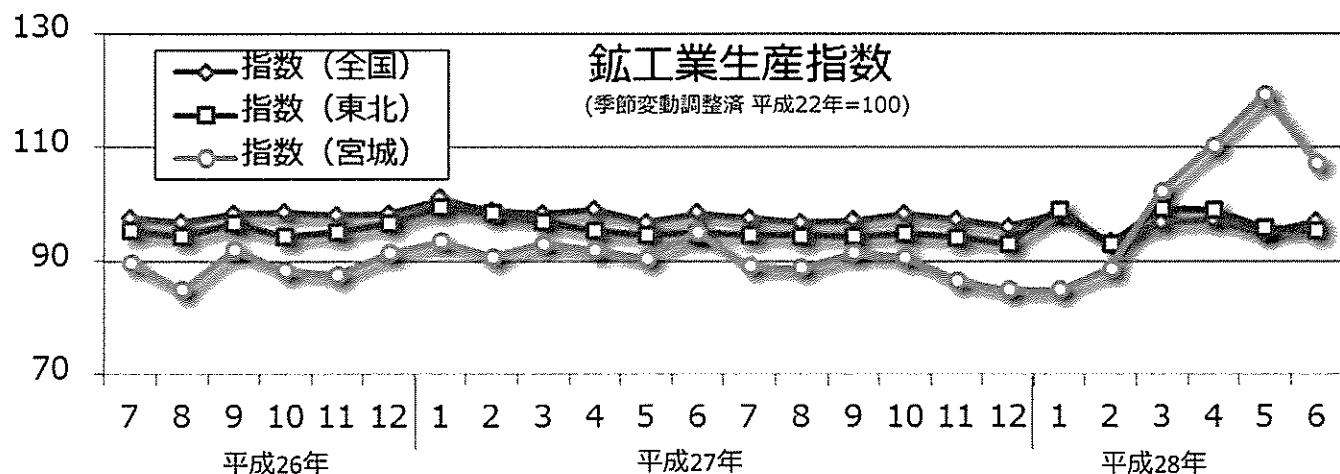
- #### ・「当期」の範囲について

本文書中での「当期」は、今回の調査対象となっている2016年4月～6月期のことを示す。

1. 経済動向

1. 1 生産

宮城の鉱工業生産指数は、平成27年までは全国及び東北地方と比較して低調傾向にあった。平成28年3月から5月までは急上昇を続けその後下降傾向となっている。宮城において鉱工業生産指数は景気一致指数であるため(*1)、本年は鉱工業生産量が全体的に増大傾向にあり経済活動も活発であると考えられる。

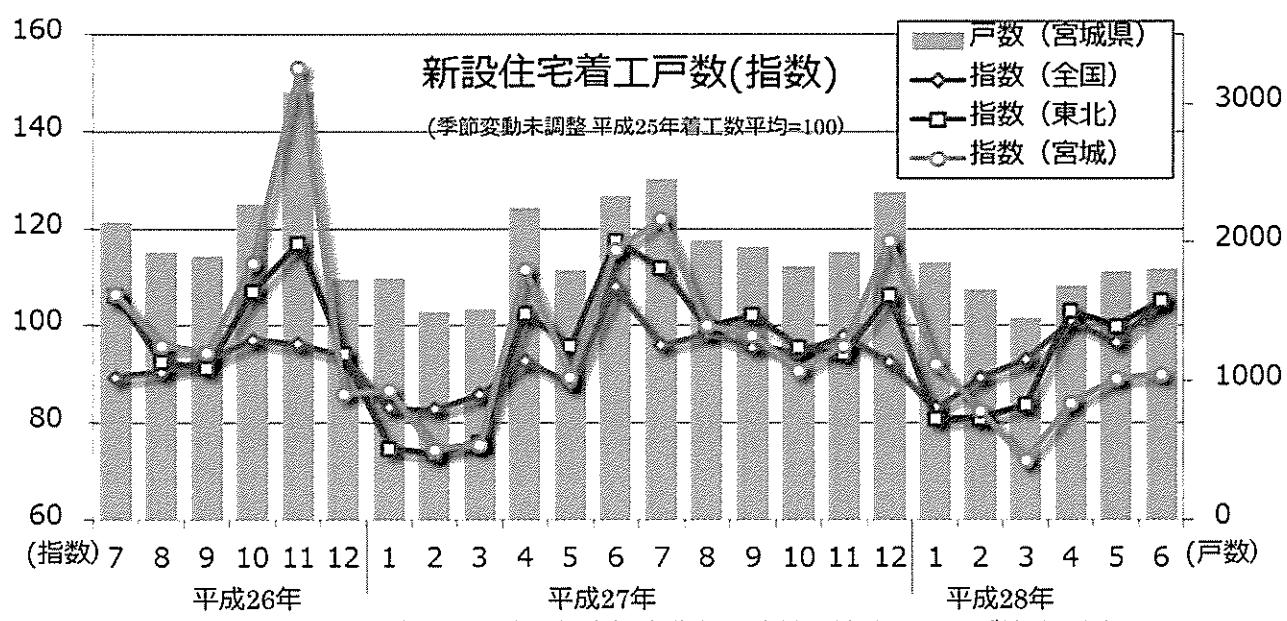


(出典：東北経済産業局 東北管内経済動向、宮城県統計課 みやぎ統計月報)

1. 2 建設

1. 2. 1 新設住宅着工

直近2年間全体の傾向として、全国ではやや上昇傾向、東北では横ばい傾向を示すが、宮城県はやや下降傾向を示している。直近4か月は全国的にも上昇傾向を示している。震災復興需要も落ち着いてきていることが伺える。

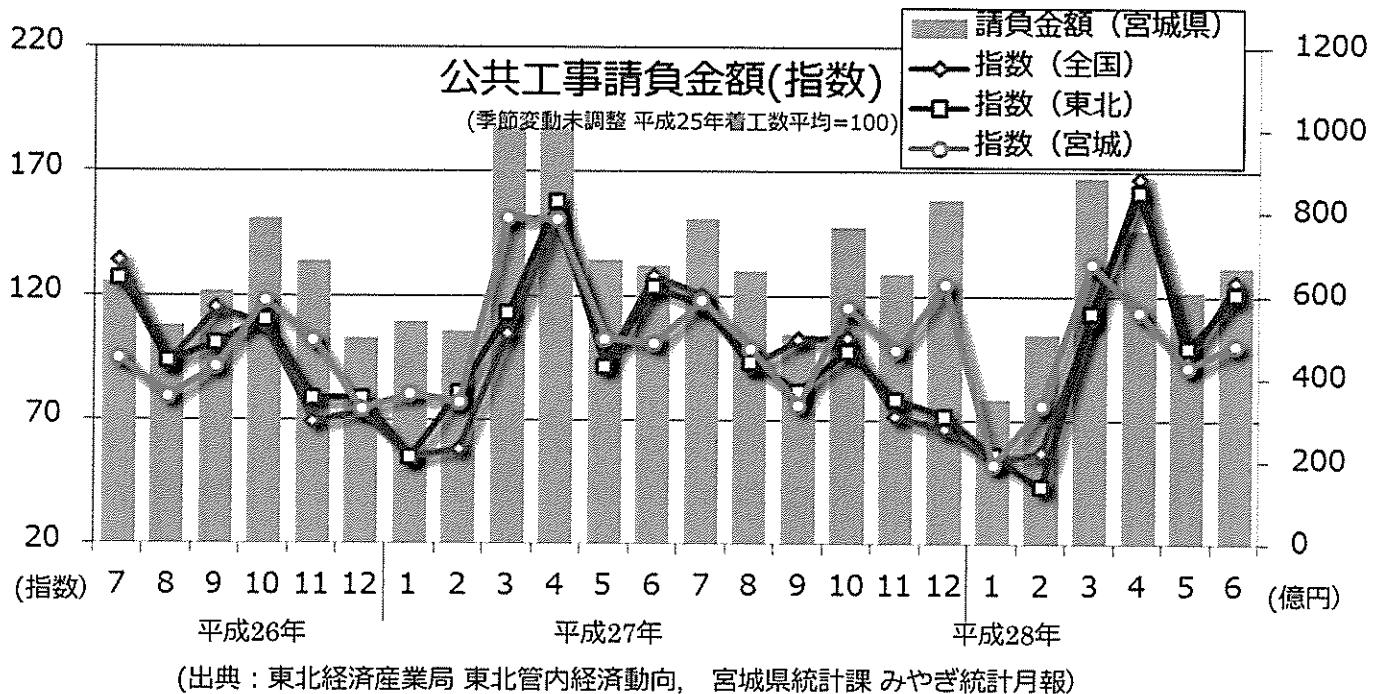


(出典：東北経済産業局 東北管内経済動向、宮城県統計課 みやぎ統計月報)

*1 宮城県統計課、みやぎ経済月報 III. 宮城県景気動向指数（概要）より

1. 2. 2 公共投資

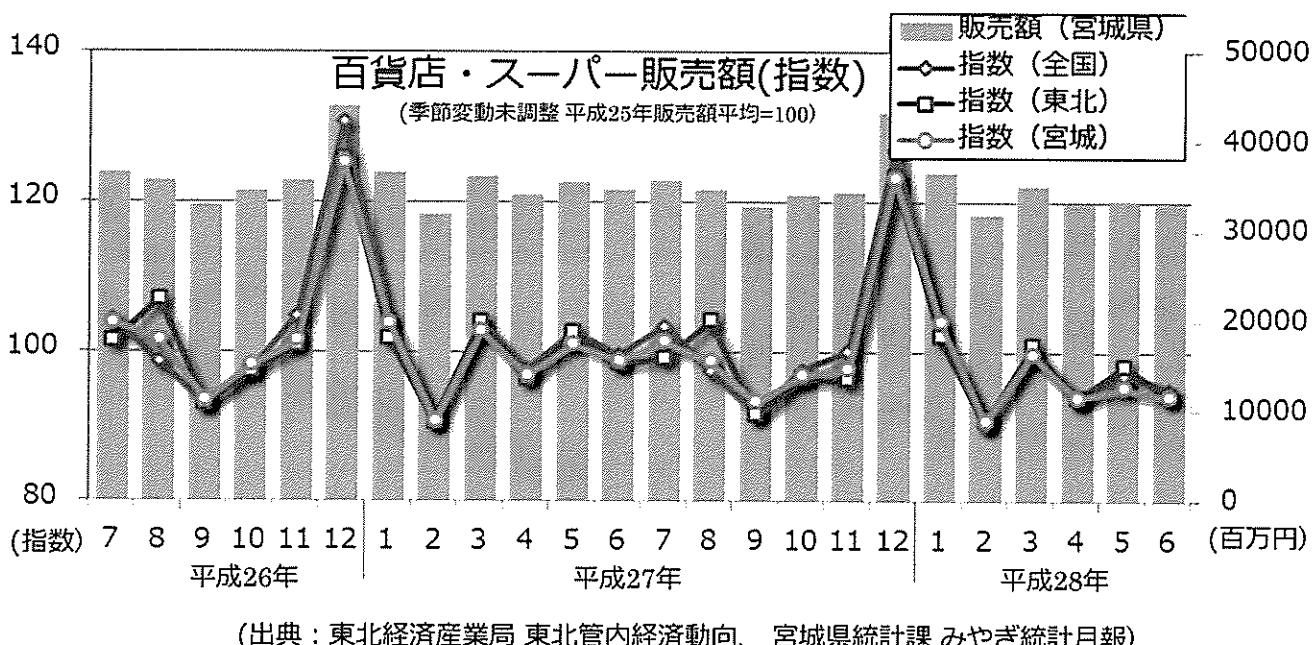
全国・東北・宮城県とも概ね同じ傾向を示している。季節変動はあるが直近2年間の傾向としては横ばいである。当期の宮城は全国・東北と連動した動きを見せていている。



1. 3 個人消費

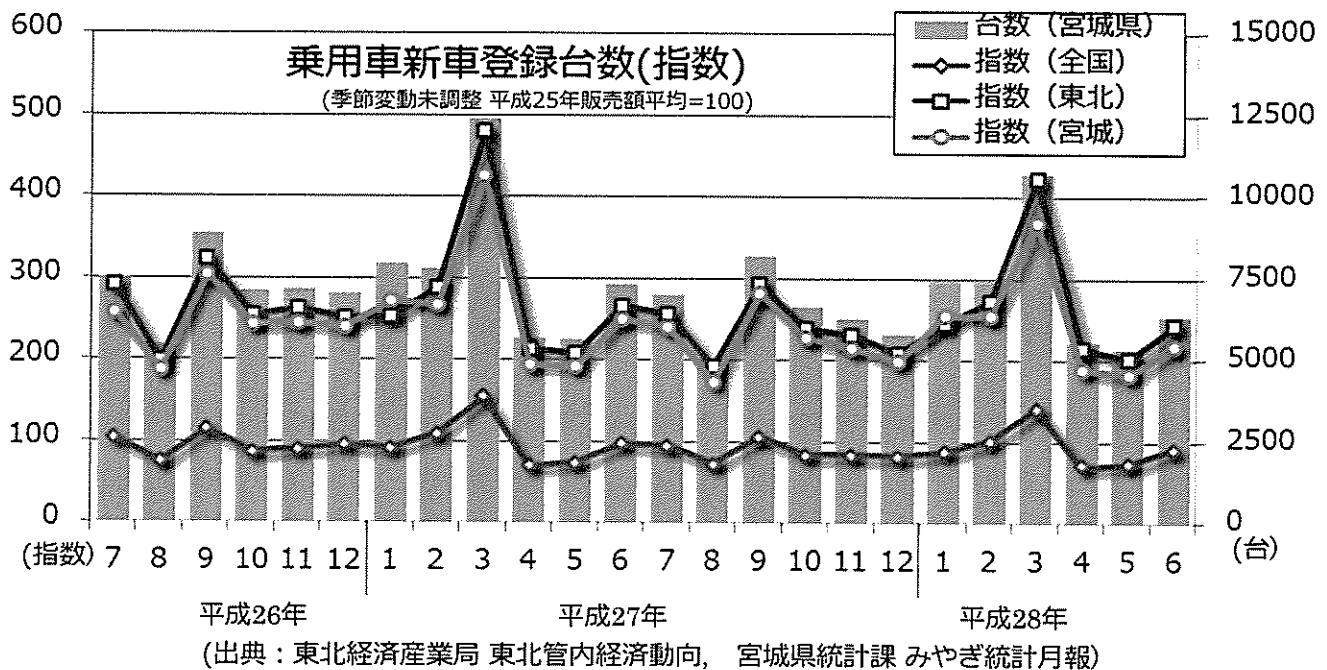
1. 3. 1 百貨店・スーパー販売額

全国・東北・宮城の傾向はほぼ同一であり、緩やかにではあるが下降傾向を示している。宮城の当期指数は概ね横ばいで、全国・東北と同じ動きを示している。



1. 3. 2 新車新規登録・届出台数

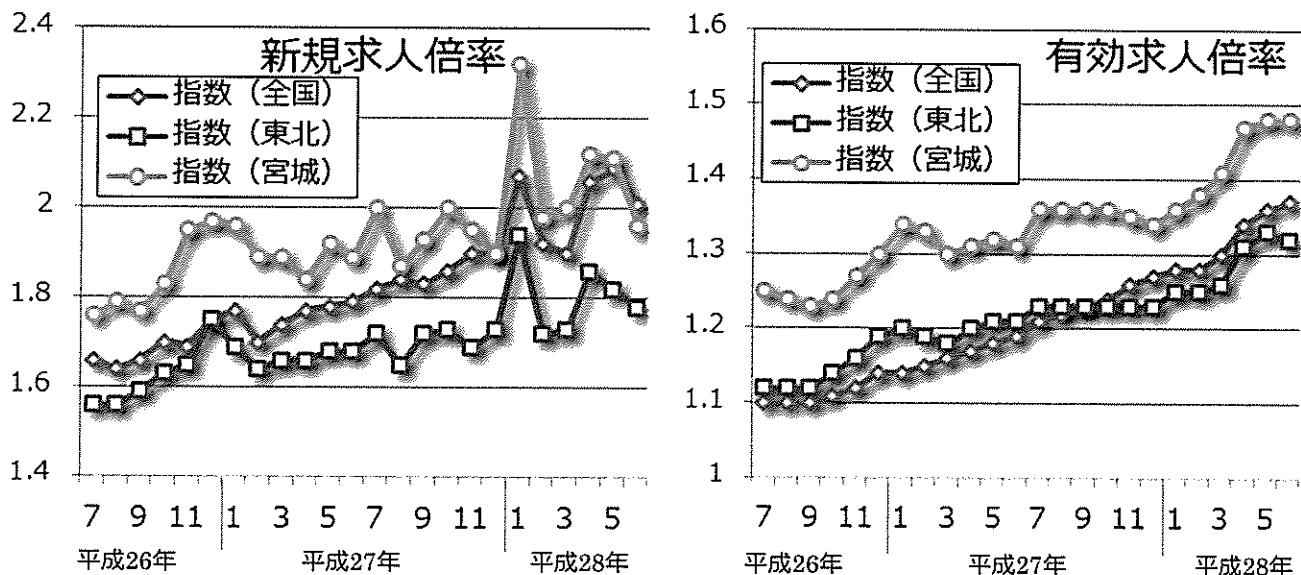
全国・東北・宮城の傾向はほぼ同じであるが、宮城の指数は200以上であり新車販売は引き続き好調であることが伺える。



1. 4 雇用

1. 4. 1 新規求人倍率・有効求人倍率

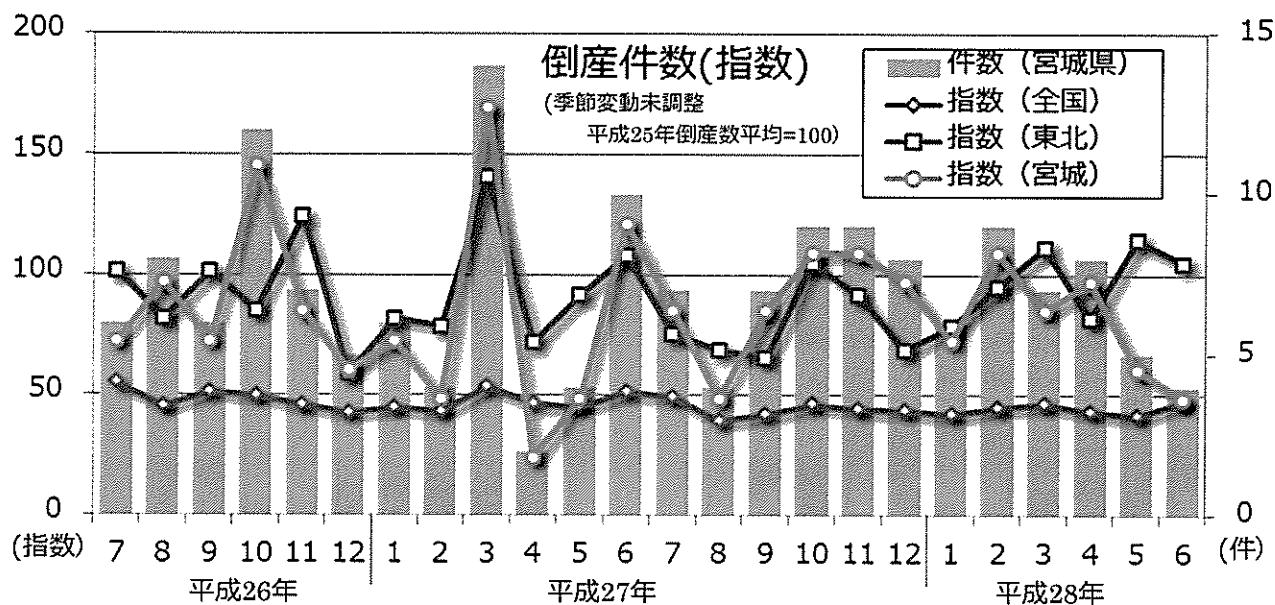
新規求人倍率・有効求人倍率ともに上昇傾向にあり人手不足の状況が継続している。当期の宮城では新規求人倍率がやや下降したものの高水準を示し、有効求人倍率は引き続き高水準を示している。



(出典：東北経済産業局 東北管内経済動向、宮城県統計課 みやぎ統計月報)

1. 5 企業倒産

東北と宮城は母数が少ないためばらつきが大きく出ているが、傾向としては概ね横ばいの状況である。全国と比較すると東北と宮城は倒産指數の高い状況が継続している。ただし当期の宮城は平成28年5月～6月にかけて下降傾向を示している。



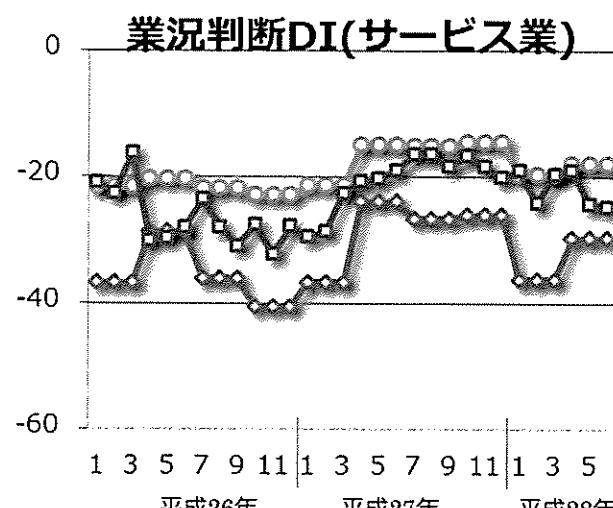
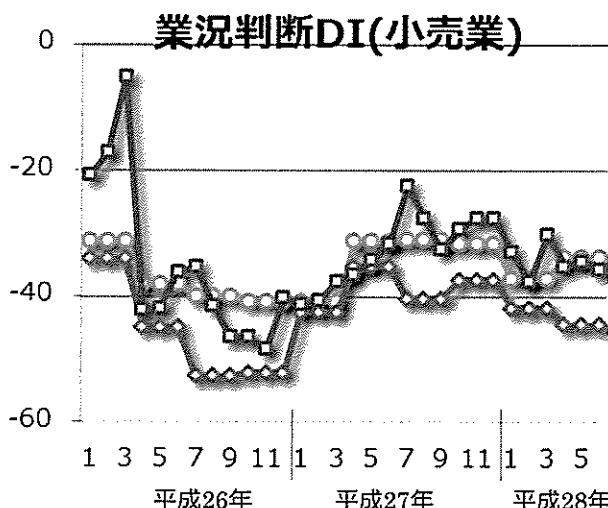
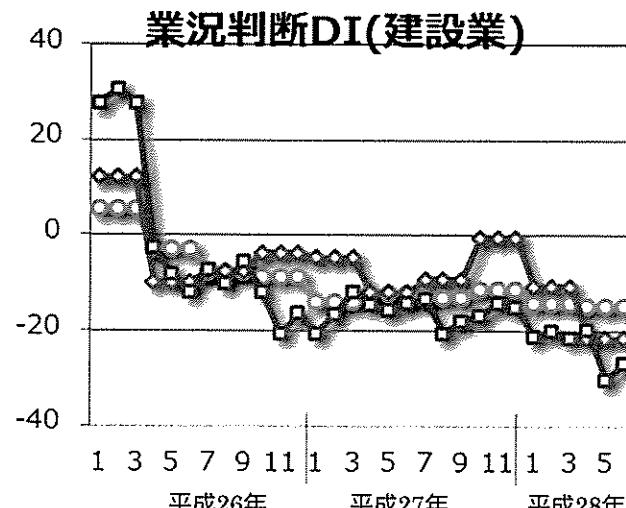
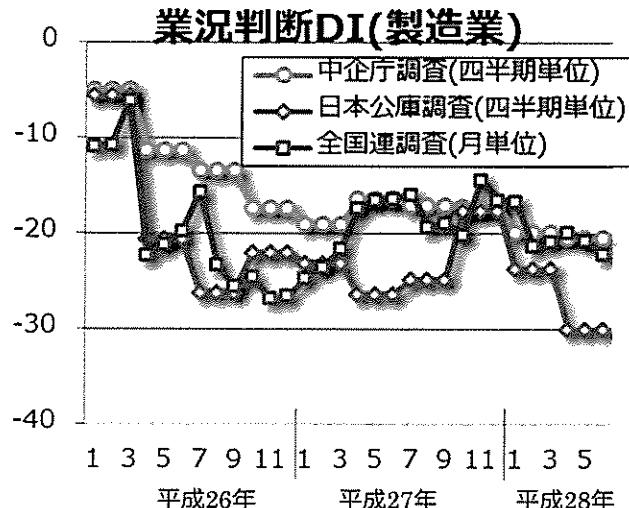
(出典：東北経済産業局 東北管内経済動向、 宮城県統計課 みやぎ統計月報)

2. 企業景気動向

2. 1 業況判断DI

全国の事業者を対象とした主な業種別業況判断DI（前年同期比）を示す。中小企業庁の調査（グラフ緑線）は全国約19,000社が対象で、小規模事業者は8割程度である。日本政策金融公庫総合研究所の調査（グラフ青線）は従業員20名以下の小企業10,000社を対象としている。全国商工会連合会の調査（グラフ赤線）は、全国約300商工会の経営指導員を対象とした調査である。

全体に共通した傾向として、製造業と建設業は業況悪化と回答した企業が多くなっている。小売業は概ね横ばいの傾向であり、サービス業は横ばいか、ゆるやかな好転傾向にあることが伺える。

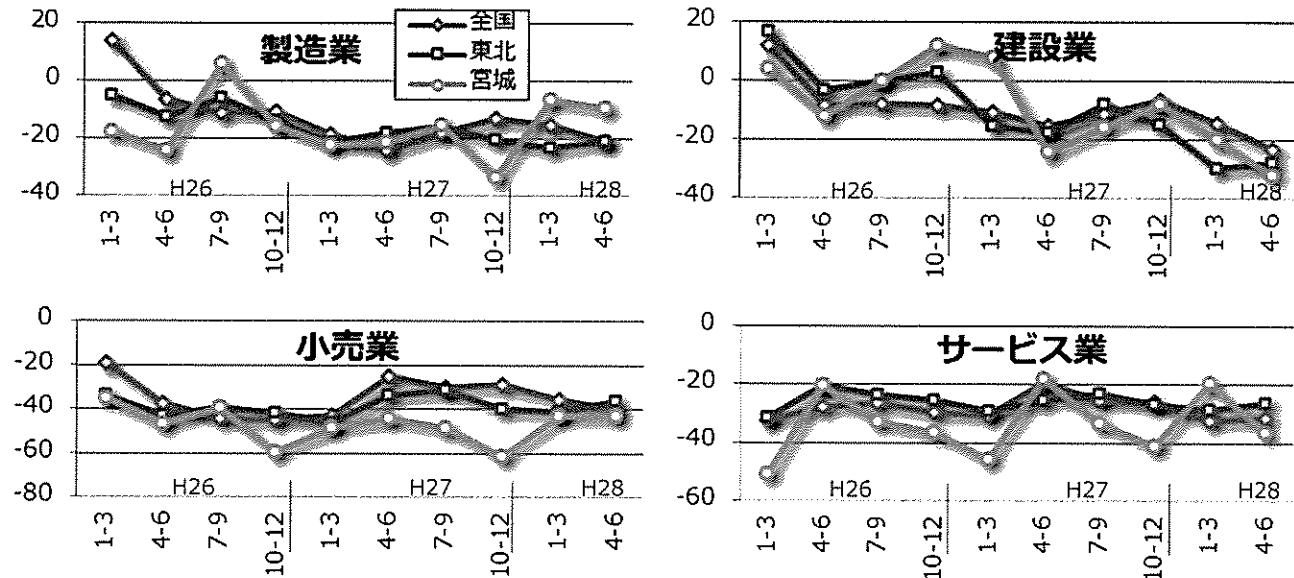


(出典：中小企業庁 中小企業庁景況調査, 日本政策金融公庫総合研究所 全国中小企業動向調査,

全国商工会連合会 小規模企業景気動向調査)

2. 2 売上DI

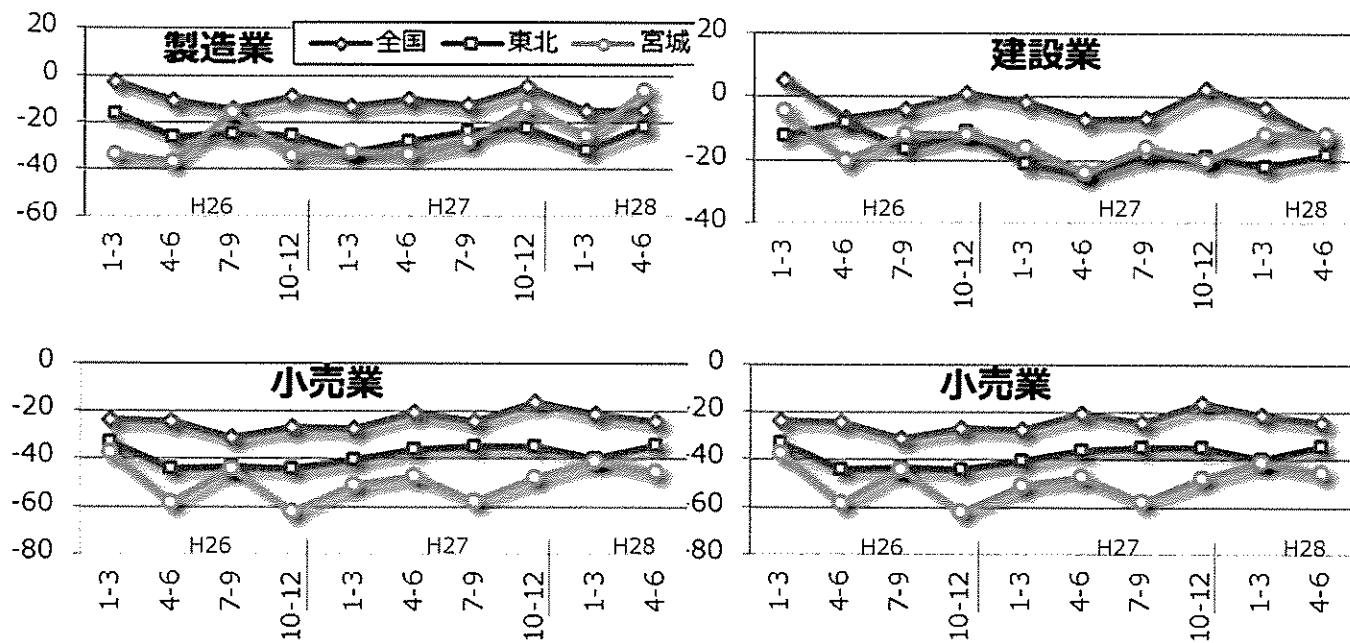
売上DIは全業種ともに0を下回っている。製造業は全体的に悪化傾向ではあるが、当期の宮城指数は全国や東北と比較して好転傾向にある。建設業は宮城県も全国の動向とほぼ同じ動きを示している。小売業・サービス業は全国の動きとほぼ連動しているが、相対的に低いDIである。



(出典：全国：日本政策金融公庫総合研究所 全国中小企業動向調査、
東北：中小企業庁 中小企業庁景況調査、宮城：宮城県商工会連合会 中小企業景況調査)

2. 3 採算DI

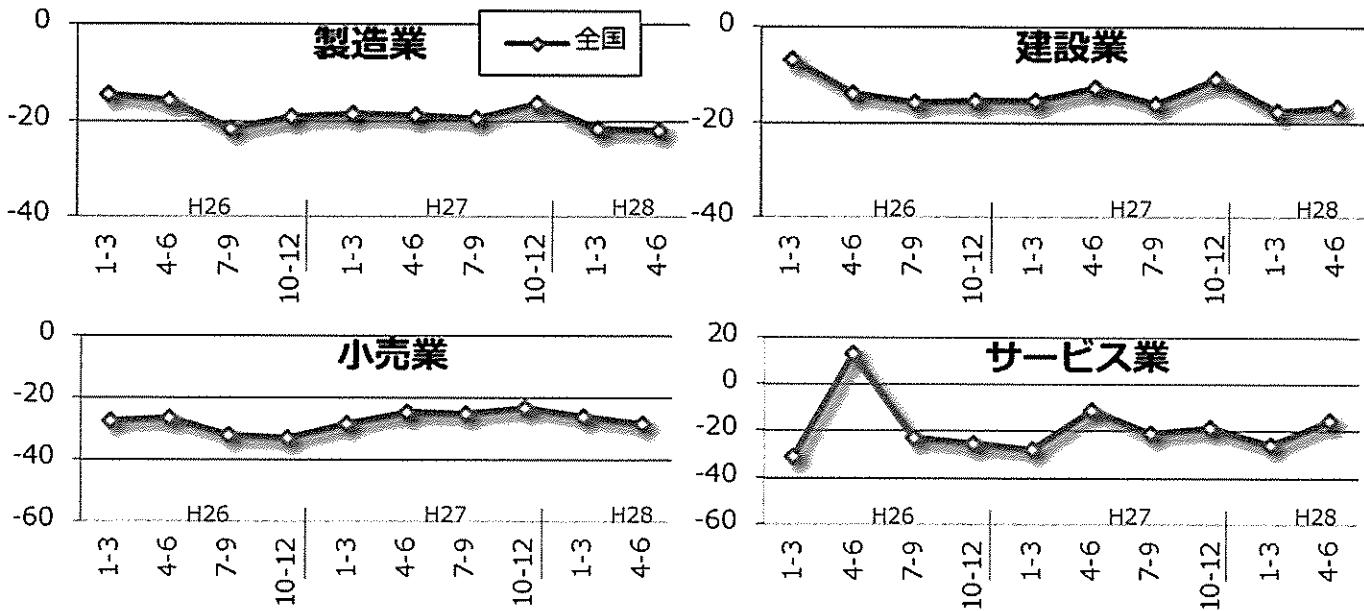
当期の宮城は製造業と建設業で全国・東北を上回っているが、小売業とサービス業で全国・東北を下回っており、商業において採算が悪化している状況である。



(出典：全国：日本政策金融公庫総合研究所 全国中小企業動向調査、
東北：中小企業庁 中小企業庁景況調査、宮城：宮城県商工会連合会 中小企業景況調査)

2. 4 資金繰りDI

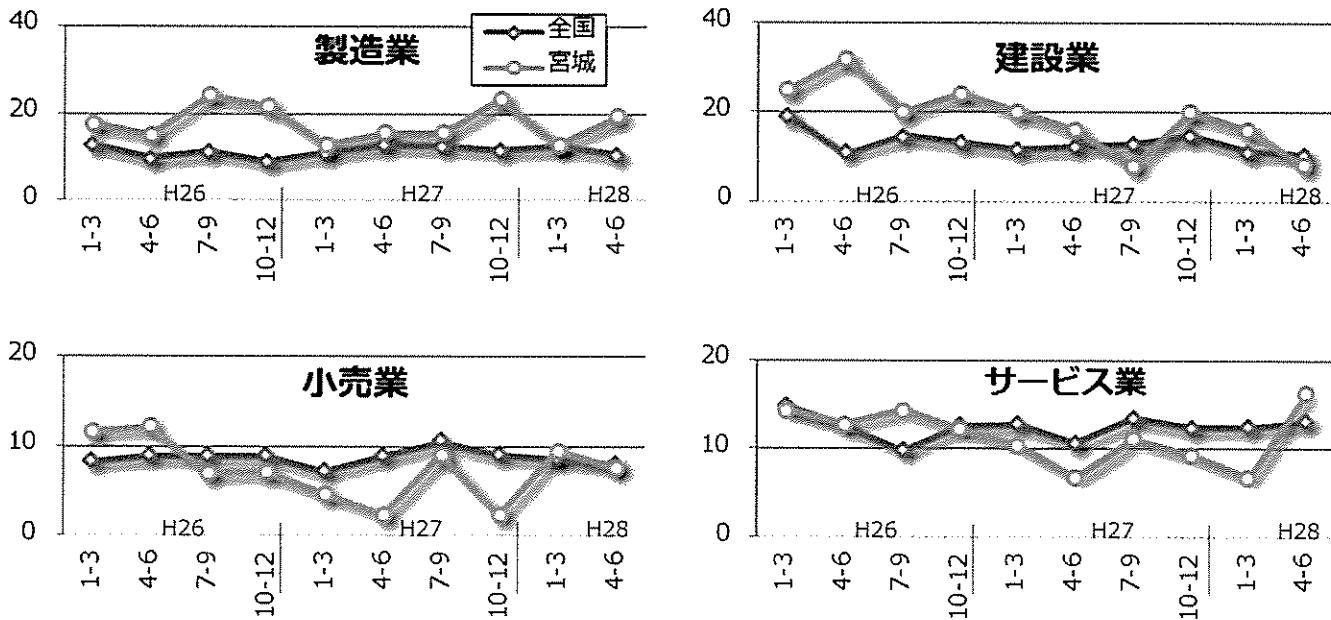
当期は製造業と建設業は概ね横ばい、小売業は悪化傾向、サービス業は好転傾向を示している。



(出典：全国：日本政策金融公庫総合研究所 全国中小企業動向調査、東北：中小企業庁 中小企業庁景況調査)

2. 5 設備投資実施率

各業種における設備投資実施率を示す。製造業とサービス業では全国よりも積極的に設備投資を行っている。建設業と小売業は全国とほぼ同じ値である。当期の宮城では、製造業とサービス業で設備投資実施率が上昇している。



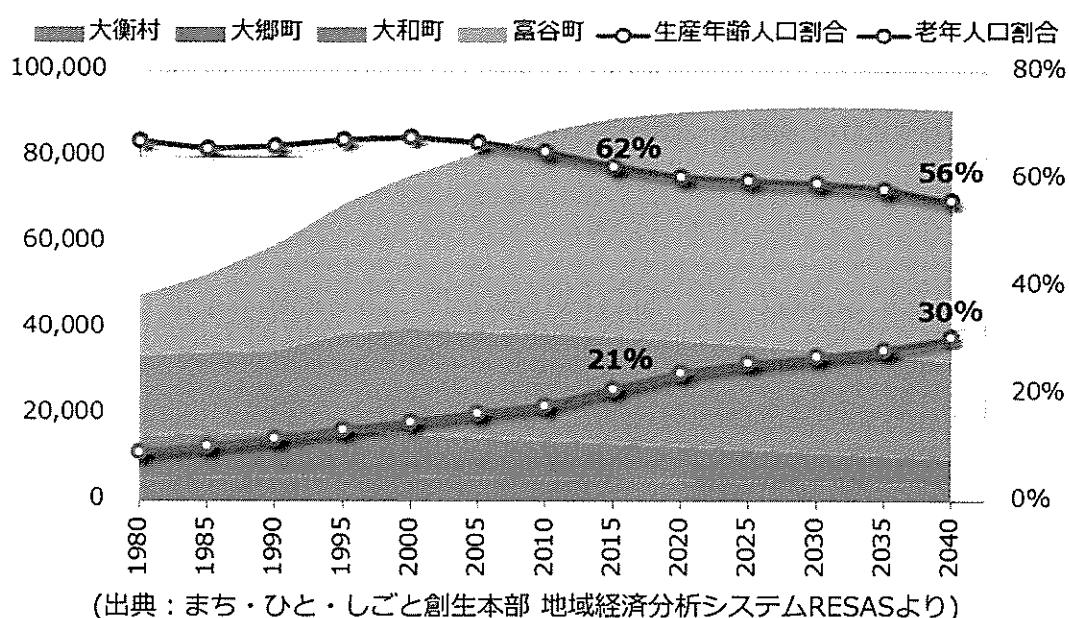
(出典：全国：日本政策金融公庫総合研究所 全国中小企業動向調査、宮城：宮城県商工会連合会 中小企業景況調査)

第2部 くろかわ商工会地区の動向

1. 人口動向

本会地区は宮城県黒川郡内の大和町、大郷町、富谷町、大衡村からなる。2016年10月には人口増加から富谷町が富谷市へと移行を遂げるなど、全体の人口は増加傾向にある。平成27年時点で本地区の総人口は89,207人、生産年齢人口割合は62%、老齢人口割合は21%である。今後の推移では人口増はゆるやかになり、生産年齢人口の減少と老人人口の増加がこれまで以上に加速すると想定されている。今後の人口や生産年齢人口割合の推移を注視し、各自治体と連携しながら活動を行う必要がある。

くろかわ商工会地区の人口推移

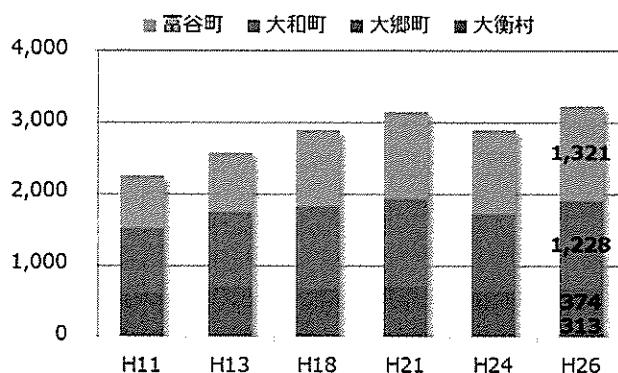


(出典：まち・ひと・しごと創生本部 地域経済分析システムRESASより)

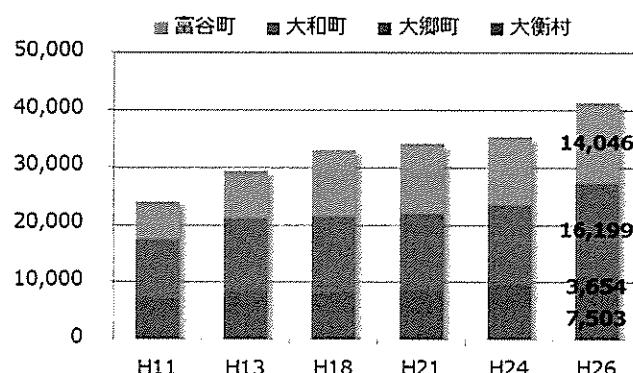
2. 事業所数・従業員数動向

隣接する仙台市のベッドタウンとして発展してきた当地区では、大和地区と富谷地区の事業所数が堅調に伸びている状況である。震災後は全体的に事業所数が減少したが、平成26年時点では震災前の事業所数まで回復している状況である。大郷地区はゆるやかに減少傾向にあり、大衡地区は概ね横ばいの状況である。

くろかわ商工会地区の事業所数推移

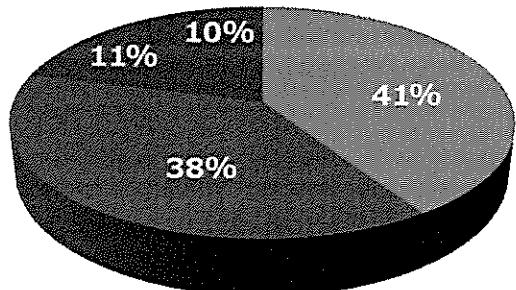


くろかわ商工会地区の従業員数推移

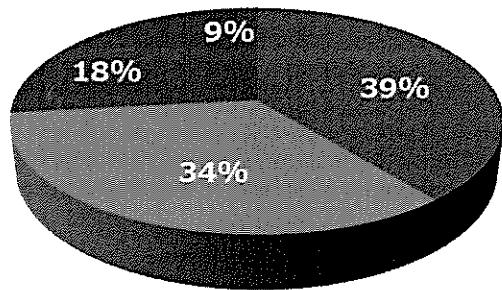


平成26年時点で、本会地区の事業所数は3,236で、従業員数は41,402人である。地区別では事業所数、従業員数ともに富谷地区と大和地区で概ね8割程度を占めている。

地区別 事業所数割合（平成26年）



地区別 従業員数割合（平成26年）



(出典：総務省統計局 事業所・企業統計調査(H11～H18)、経済センサス基礎調査(H21～H26))

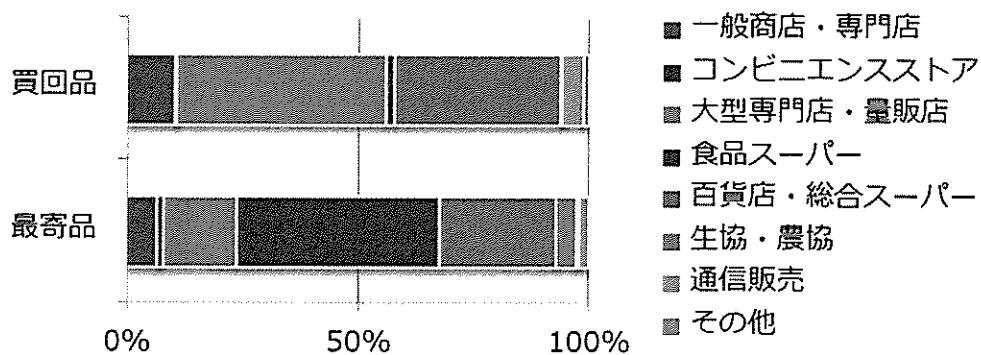
3. 商圏

宮城県の商圏(*2)によれば、当会地区は仙台泉商圏と富谷商圏に位置しており、東は宮城野商圏と多賀城商圏に隣接し、北は旧古川商圏に隣接する。特に富谷地区と大和地区は、仙台泉商圏と富谷商圏の両方の中核都市として位置しており、近隣からの顧客吸引率が高い。地元購買率は大和地区、富谷地区では比較的高い一方、大郷町と大衡村では低い。

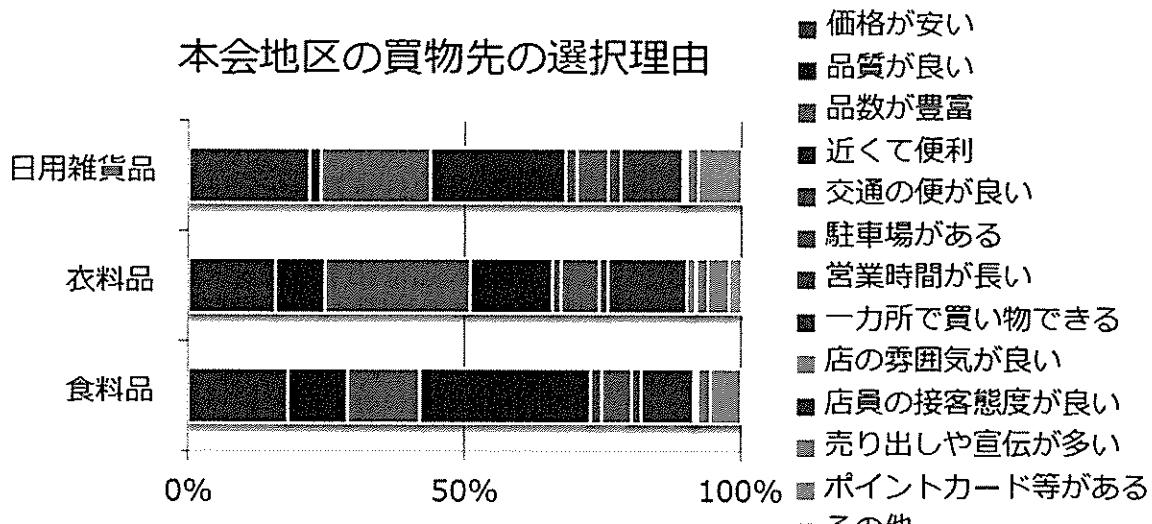
商圏範囲と吸引率(人、%)		
商圏	商圏人口	吸引率
仙台泉	1,075,655	26.9
富谷	310,186	16.1

地元購買率(%)			
町村	最寄品	買回品	飲食サービス
大和町	67.0	11.1	9.6
大郷町	33.1	0.2	1.9
富谷町	83.8	44.2	47.4
大衡村	3.1	0.0	0.0

本会地区の買物先店舗



*2 宮城県の商圏（消費購買動向調査報告書）平成28年3月

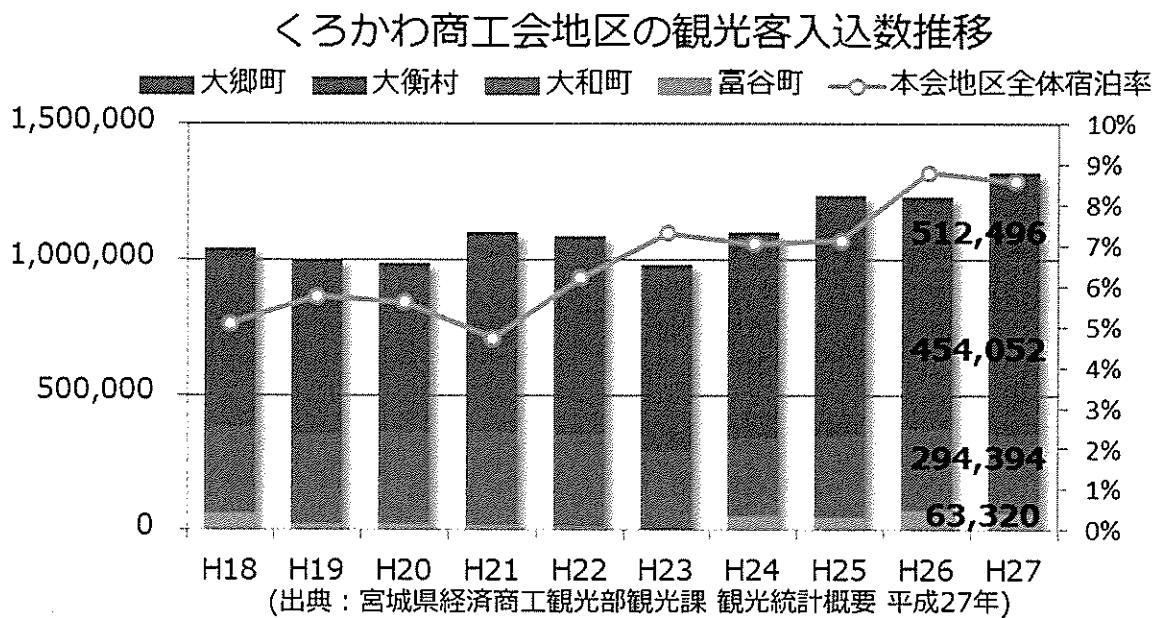


(出典：宮城県の商圈（消費購買動向調査報告書）平成28年3月)

本会地区の買物先店舗としては、最寄品は食品スーパー、買回品は大型専門店・量販店の割合が高い。また百貨店・総合スーパーは最寄品と買回品の両方で割合が高い。買物先の選択理由は、すべての商品において「価格が安い」「品数が豊富」「近くで便利」「一ヵ所で買い物できる」と回答した割合が高くなっている。

4. 観光

本会地区は七ツ森、船形連峰や、埋蔵遺跡など自然や観光スポットに恵まれている。平成27年の本会地区への観光客入込数は約132万人で、宿泊客が11万人（宿泊率(*3)は約9%）となっている。震災後は観光客が一時的に減ったが、現在は震災以前よりも多くの観光客が来訪している状況である。



*3 宿泊率は、宿泊観光客数÷観光客入込数で算出した。

主要な観光スポット別の観光客入込数では、道の駅「おおさと」と七ツ森が多数を占める。各地域自治体の観光施策を踏まえながら、当会地区全域での観光振興を行うことが望まれる。

(単位：人)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	傾向
七ツ森	267,109	268,564	262,433	↓
船形山（大和町）	31,961	31,961	31,961	→
道の駅「おおさと」	431,321	342,668	423,878	↗
バストラル「緑の郷」	25,473	12,520	11,466	↓
夢実の国	53,204	68,392	71,978	↗
大亀山森林公園	22,386	26,518	27,335	↗
昭和万葉の森	21,967	22,448	33,411	↗
おおひら万葉パークゴルフ場	70,695	66,966	69,996	→

(出典：宮城県経済商工観光部観光課 観光統計概要 平成 27 年)